



第15号

令和2年6月1日  
高山赤十字病院

## 病院長よりこんにちは！

拝啓 入梅とともに梅雨空が続きますが、お健やかに過ごしのことと存じます。開業医の先生方はじめ関係機関のみなさまには、患者さんのご紹介など相互連携にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

あっという間に今年も6月、北アルプス笠ヶ岳の西斜面の残雪が馬の形に浮かび上がり田植えの季節を迎えました。木々の緑も深みを増しているように見受けられます。

緊急事態宣言解除がなされ、少し冷静に振り返る時期に突入したように思います。新型コロナウイルスの影響で急激な日常生活の変化を余儀なくされた私たちは、どんな心理的変化を経験したでしょうか。非常事態を迎えるたび、都会から地方への注目度は益々大きくなっているように思います。新しい日常を模索する若者が、資源豊かな飛騨地方に魅力を感じ、未来につながる人材の確保に繋ぐことができないかと頭を過っておりまして。

関係者の皆様におかれましては、梅雨冷えの肌寒い日もありますので、どうぞ体調をくずされませんようご自愛ください。

敬具

病院長 清島 満

【同封文書】

○病院長あいさつ「病院長よりこんにちは！」

新型コロナウイルス感染症に係るお知らせ

・・・P2

先生ってこんな人 リハビリテーション科 村川孝次 医師 ・・・P3

○外来担当医表 6月分

○高山赤十字病院診療案内

…患者さんによるご予約の場合に当院への紹介状と共にお渡しいただくと便利です

○地域連携係よりお知らせ

『地域連携のご案内』の文書差し替えについて

- ・診療科外来担当医師一覧（初診）
- ・診療予約申込書



## 【新型コロナウイルス感染症に係るお知らせ】

岐阜県内の緊急事態宣言は5月25日に解除されましたが、緊急事態宣言解除は新型コロナウイルス感染症終息宣言ではなく、今後も第2波、第3波の可能性があります、当院の診療機能を低下させることなく医療体制を確保する必要があることから、

今しばらく「面会禁止」を継続いたします。

■■■面会禁止に伴うクローク（荷物受け渡し）窓口■■■

《場所》2病棟1階 エレベーター横

《時間》平日 8：30～17：00

土日祝は救急外来窓口で対応しています。

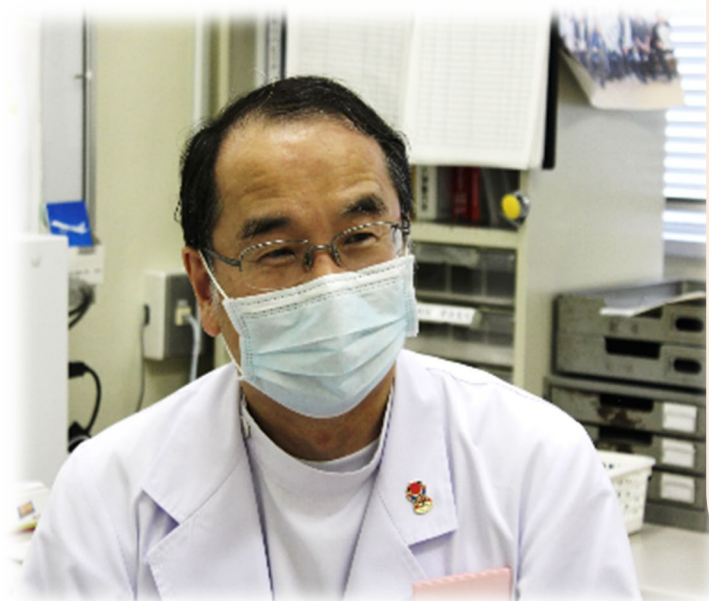
今後の流行状況によって感染防止対策や面会制限の見直しを行いますが、何卒、御理解と御協力をお願い申し上げます。





## ◇◇『先生ってこんな人』シリーズ⑦◇◇

日ごろ紹介状を通じてお世話になっている開業医の先生と「顔の見える関係」を築き、安心して患者さんをご紹介いただけるようスタートした『先生ってこんな人』シリーズ。  
第7回目は、リハビリテーション科の村川孝次先生です。



### ご経歴を教えてください

大阪赤十字病院で生まれて間もなく大阪府堺市に引っ越し、高校卒業を経て岐阜大学入学を機に岐阜県へ。

卒後3年目から当院勤務後、大学の研究室、愛媛で3年半臨床医、その後は今に至るまで県内の関連病院に勤務しています。

高山赤十字病院は3回目の赴任となり、キャリア変更後リハビリテーション科の専門医として勤務しています。

### 医師を目指したきっかけは何ですか？

実は医学部に入るまで、いや、入学してもしばらくの間、自分が医師になることに半信半疑、同級生のモチベーションに圧倒されていました。元々理系で多くを受験するなかに医学部が含まれていた結果でした(笑)

そんな私も時が経つにつれ徐々に自覚が芽生え、外科系と心に決め、医局を選ぶ際は教授のお人柄、教室の雰囲気重視し、「和を以て貴しとなす」が旗印でもあった山田教授のもと脳神経外科医の道に進むことを決めました。

### 先生は脳神経外科医からリハビリ専門医へキャリアを変更されています。

脳神経外科医の頃は何時コールが鳴っても駆けつけていましたし、手術にも非常にやりがいを感じていました。

ところが、50代に入り右目に病気が見つかり手術を経てしばらく、今まで通り100%の力を発揮できないと判断し、自らメスを置くことを決めました。当時は苦渋の決断でしたが、教授に相談したところ意思を尊重いただき、「ところで、このあとどうするの？」の言葉に、これからのことを熟思していなかったとハッとしました。のちリハビリの専門医を目指し、研修機関のひとつ岐阜中央病院で経験を積み指導医の取得に至ります。

### その後、当院へ3度目の赴任が

#### 決まったのですね。

岐阜市内の病院に在籍していたころ、当時病院長であった棚橋忍先生と偶然お会いしたことがきっかけで、「もう一度高山に」とお誘いをいただきました。

元々、高山は食べ物、お酒、空気も美味しく、きれいな町並みはとても気に入っていましたが、何より「人」がいい。また、一つの病院で急性期から慢性期まで一連を診ることができ、ひとりの患者さんと長い付き合いが出来るということは、医師・患者さん双方にとって最大の利点だと思っています。



### リハビリテーション科としては、専任の先生がいらっしゃることは心強いと思います。

リハビリテーションは理学療法士23名、作業療法士11名、言語聴覚士5名、みんなプロ意識高く大変良くやってくれています。リハビリテーション科専門医として赴任し、大きな使命としてはスタッフが医師に相談しやすいよう業種間の壁を低くし、働きやすい環境を整えることから始めました。一方、ドクターは急性期の患者さんが慢性期に移行する際、開業医の先生方へ報告、介護保険など公的書類、退院時にはサマリー等、主治医の先生が抱える書類は多岐に渡るので、少しでも手助けになればと思っています。

地域の先生方へは限りあるキャパシティのなかで入院患者さんが主となりますが、主治医を通じて少しでも先生方との連携を見据え、ご要望があれば私からもお手紙も書かせていただきたいと思います。



### 具体的な業務内容を教えてください。

当院は回復期リハビリテーション病棟及び地域包括ケア病棟を有し、急性期から回復期にある患者さんを対象に、日常生活で行う基本的な動作の獲得にむけた訓練を行っています。

整形外科、脳外科の他、内科、外科などの呼吸器疾患や廃用症候群、未熟児から高齢者まで幅広く、特に小児患者さんは小児科山岸部長、小児整形を専門とする整形外科斎藤先生のご協力もあり充実していると思います。その他、妊婦さんには母親学級では産後も役立つ骨盤ケアや、手術後はリンパマッサージなど業務も幅広いですね。

また、利用者さんは復帰に向けたプログラムをもとにリハビリを行います。状況に応じて臨機応変に修正しきめ細かい情報を得、スタッフ間の共有も密に行っています。



### リハビリテーション科から 雰囲気の良いことが伝わってきます。

不思議と離職率も低く、出産を機に退職する職員は稀、ほとんどが職場復帰してくれますので有難いですね。昔に比べ、入院期間が短くその分高いレベルでのリハビリを求められる時代となりました。そのため、医療安全面でのリスク管理は重要なので、カンファレンス以外でもコミュニケーション多く小さな情報も共有している姿をよく目にします。スタッフ全体が非常に意欲的に関わっていて、あとはみな気が長く優しいですね。

### プライベートでは、ラジコンの名手とお聞きしました。

幼少期から手を動かすことが好きで木片を使ってエンジン飛行機やプラモデルをよく作りました。高校入学時からはモノづくりから遠のき、兄の背中を追いかけるように真面目に勉強していたのですが、医師となり結婚し子供の動かなくなったミニ四駆を直してあげようと触ったその一瞬、昔にタイムスリップしてしまいました(笑)

今はラジコンを作り走らせて楽しんでいます。趣味の世界は不思議と年齢や仕事、性別など関係なく人間関係が形成される点も魅力ですし、キャリア変更したことによって、昔は想像すらしていなかった時間を過ごしています。本当に「万事塞翁が馬」ですね。

成人した子供たちもラジコンに興味を持ち家族でレースを楽しんでいます。個性が反映されとても面白いです。おかげで遠征にはお金が飛んでいくばかりですが(笑)



最後に開業医の先生方にひとことお願いします。

都心部は急性期と回復期が明確に分かれ、1人の患者さんがひとつの病院ですべての治療が完結することは稀になってきましたが、当院は全国の赤十字病院のなかでも最多の機能を有し、その使命を果たすべく皆がんばっています。その恩恵を患者さんに感じて頂けるよう縁の下の力持ちとして地域を支えていきたいと思います。

入院患者さんの主治医を通じて必要な情報は、ご要望ありましたら私からもお手紙を作成させていただきます。お気軽にお声かけいただきたいと思います。

リハビリテーション科

むらかわ たかつぐ  
村川 孝次 先生

